各　　位　　平成１７年３月３日

会 社 名　株式会社 神戸製鋼所
（URL　http://www.kobelco.co.jp）
代表者名　代表取締役社長　犬伏　泰夫
（コード番号　5406　東証、大証、名証）
問合せ先　秘書広報部長　　泉　博二
（TEL　03-5739-6010）

平成１７年３月期 業績見通し並びに期末配当について

（四半期業績の概況の開示）

当社の第 152 期（平成 17 年 3 月期）の業績につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。なお、これは、㈱東京証券取引所の定める適時開示規則に基づく四半期業績の概況の開示も兼ねて行なうものです。

（１）連結業績見通し

当期のわが国経済は、堅調な輸出と民間設備投資の増加に支えられ、回復基調を辿りましたが、原油価格の高騰やＩＴ関連の在庫調整などの懸念材料もあり、景気は踊り場的な状況で推移しております。

鋼材の下半期における国内需要については、造船、自動車など製造業向けを中心に、上半期を上回る水準で推移しております。また、輸出についても、日本メーカーが主力としている高級鋼市場では、日系需要家向けを中心に引き続き旺盛な需要が見込まれます。このような状況から、全国粗鋼生産については、1 億 1,300 万トンを超える水準となる見通しです。

このような状況の中、当社鉄鋼関連事業における下半期の鋼材販売量は、上半期を上回る水準となり、販売価格についても、鉄鋼需給の逼迫や原材料価格の高騰に伴い、内外ともに上昇傾向で推移しております。また、機械関連事業においては、世界的な鉄源不足を背景に、当社の保有する技術（ミドレックス方式）を用いた直接還元製鉄プラントの発注が相次いだことから、ライセンス収入が増加する見通しです。

これらの結果、当期の連結売上高は、前回見通しを 100 億円上回る 14,500 億円程度となり、経常利益についても前回見通しに比べて 50 億円増の 1,100 億円程度となる見通しです。

また、当社は、鉄鋼及びアルミ銅関連事業の主要事業所におけるたな卸資産の評価方法として、後入先出法を採用しておりますが、国際会計基準の動向等を踏まえ、平成 18 年 3 月期より総平均法へ変更する予定です。この変更に伴い、時価が簿価を下回っているたな卸資産に係る含み損が顕在化するため、この変更に先立ち、当期末において、財務健全化の観点から、その損失約 100 億円を「たな卸資産評価損」として特別損失に計上する予定です。

以上の結果、連結の当期純利益は前回見通し並みの 500 億円程度となる見通しです。

【連結業績見通し】 （億円）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
今　回　見　通　し	14,500	1,100	500
前回見通し(昨年 11 月 11 日)	14,400	1,050	500
（参考）前　期　実　績	12,191	507	220

（２）単独業績見通し

当期の売上高は、前回見通しに比べて 100 億円増加の 9,000 億円程度となり、経常利益も前回見通しに比べて 30 億円増加の 630 億円程度となる見通しです。一方、税引き後の当期純利益については、「たな卸資産評価損」を特別損失に計上することなどから、前回見通しに比べて 40 億円減少の 290 億円程度となる見込みです。

【単独業績見通し】 （億円）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
今　回　見　通　し	9,000	630	290
前回見通し(昨年 11 月 11 日)	8,900	600	330
（参考）前　期　実　績	8,011	252	158

〔期末配当について〕

当期の期末配当については、本年度の業績見通し及び内部留保の状況を勘案し、1 株につき 3 円とする案を定時株主総会にお諮りする旨、本日開催の取締役会において決議しました。

以　　上

本資料の予想に係る部分は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。